

エコ近畿

『エコ近畿』では、近畿の特徴である身近な自然を保全・再生し、豊かな都市環境を形成することを目的に、地域住民や市民団体と連携しつつ、次の事業を行っています。

①大阪湾ベイエリアの再生など、都市の環境整備

大阪湾再生の推進

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい大阪湾の創出をめざす都市再生プロジェクト「大阪湾再生」が推進されています。
(詳細は本文P32参照)



大阪湾再生のイメージ

自然と共生する川づくりの推進

コウノトリの保護増殖をはじめ、豊かな自然を守り育てる様々な取り組みを進めています。
(詳細は本文P32参照)



円山川に舞い降りた野生のコウノトリ

水と緑のネットワーク整備の推進

阪神地域で実施される各事業が創出する緑地などを有機的に連携させることにより、緑地空間をネットワーク化し、環境共生型の地域づくりを推進します。
(詳細は本文P33参照)



一般国道43号環境防災緑地

琵琶湖・淀川流域圏の再生計画の推進

「水でつなぐ“人・自然・文化”」を基本コンセプトに、流域圏のあらゆる機関が連携して琵琶湖・淀川流域圏の再生計画を推進していきます。
(詳細は本文P33参照)



琵琶湖・淀川流域圏：拠点箇所の完成イメージ

自然と人との共生を目指した緑の拠点

県民参画のもと、豊かな自然環境の中で、レクリエーション、スポーツを通じた健康づくりや、人々が楽しく遊び、ふれあうことのできる交流の森づくりを進めています。
(詳細は本文P34参照)



尼崎21世紀の森中央緑地

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動

協議会では瀬戸内海の多様な資源を活かした人の流れを創り出し、アメニティー豊かな地域として、沿岸地域全体の発展を図ることを目的として、各種活動を行っています。
(詳細は本文P34参照)



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会のマーク

大阪湾再生の推進

福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
大阪湾

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい大阪湾の創出をめざす都市再生プロジェクト「大阪湾再生」が推進されています。
平成16年3月に「大阪湾再生行動計画」

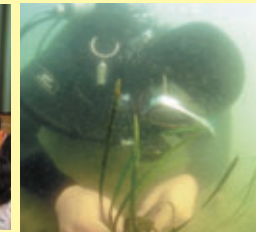
が策定され、10年をかけて「魚庭（なにわ）の海」を回復し、市民が誇りうる「大阪湾」の創出をめざした、官・民協働による取り組みが進められています。
平成18年度には、大阪湾の中でも特に

水質汚濁が懸念される尼崎から堺にかけての湾奥部で集中的な水環境改善の取り組みを行います。また、「人と海との関わり」の再生をめぐり、市民との更なる協働を推進します。

「人と海との関わり」の再生



環境学習を展開
地元小学生が育てたアマモ（海草）をボランティアのダイバーらが大阪湾に移植



写真：城者氏

多様な生物生息空間の確保



堺泉北港堺2区地区 干潟（イメージ図）
大和川河口の堆積土を利用し、干潟を造成

水質の改善



↑合流式下水道の改善（「平成の太閤下水」など）
河川による浄化事業→東淀川（薄層流浄化）など

浮遊・漂着・海底ゴミの削減

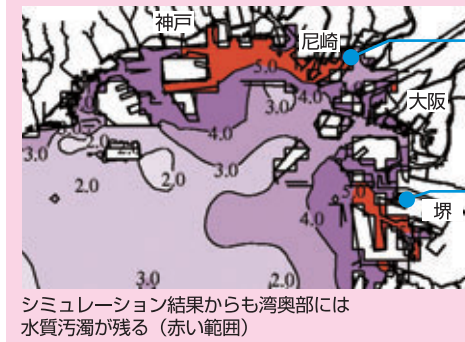


↑海洋環境整備船によるゴミ回収
ゴミの回収状況→

専門家の意見

「大阪湾再生」を平易な言葉で表せば、「みんなで楽しめる大阪湾にしよう」ということであろう。そのためには、①みんなが大阪湾に関心を持ち、足を運ぶような環境を作ること、②楽しめるような水質を確保するために科学的な知見に基づいた施策を立案・実施すること、が必要である。前者の市民参画については、さまざまな取り組みが行われ始めている。後者については、海の状態把握が把握できるような基礎情報の集積・管理・公開する体制が確立されれば、さまざまなアイデアが泉の如く湧き出てくるものと確信する。
(大阪市立大学 重松助教授)

湾奥部における集中的な取り組み



シミュレーション結果から湾奥部には水質汚濁が残る（赤い範囲）

水質汚濁の改善が難しい湾奥部において集中的な取り組みを開始



「尼崎シーブルー事業」が始動

「堺浜」で人工干潟実証実験を開始

市民の声

海が好きで、以前は他所のキレイな海で潜っていましたが、大阪湾再生プロジェクトが始まったと聞き、体中に稲妻が走るほど驚きました。大阪湾では潜れるはずがないとあきらめていたから。海のゆりかごと呼ばれるアマモ（海草）を地域の子供達に種から育ててもらい大阪湾に植えています。時間はかかるでしょうが、大阪のダイバーだからこそ、きれいな大阪湾を取り戻したい。30年かけてでも大阪湾がダイビングスポットとなる日を目指しがんばります。
(NPO法人CAN 関藤博史)

自然と共生する川づくりの推進

福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 三重
円山川

我が国に生息する野生のコウノトリが、兵庫県但馬の地で絶滅して30年余が経過します。コウノトリ保護増殖をはじめ、「コウノトリ野生復帰推進計画」（平成15年3月策定）に基づき、関係機関や地域住民が連携し、豊かな自然を守り育てる様々な取り組みを進める中、平成17年9月24日には試験放鳥が実施されました。

平成18年度には、円山川において、多様な生物の生息・生育空間の整備をすすめるために、ビオトープのモニタリングを継続するとともに、「円山川自然再生計画」を策定するとともに、湿地の確保に配慮しつつ河川改修工事を実施します。



湿地再生のイメージ